

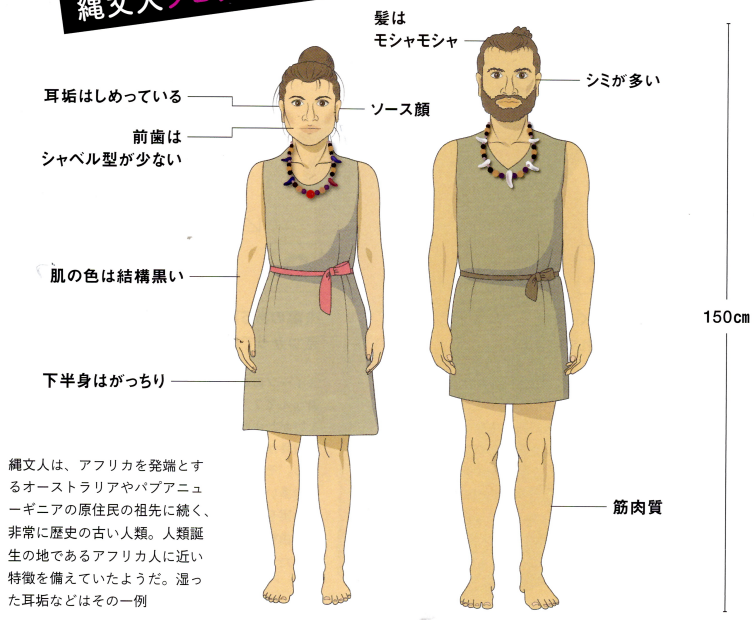


国立遺伝学研究所 教授
齋藤成也さん
核DNAによる遺伝学
研究における国内第一
人者。陶芸家の父の下
で幼少の頃から考古学
的なものになじみ、東
京大学で人類学を専攻。
近著に『核DNA解析で
たどる日本人の源流』
(河出書房新社)がある

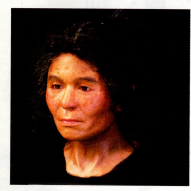
身体

最新版!

縄文人プロフィール



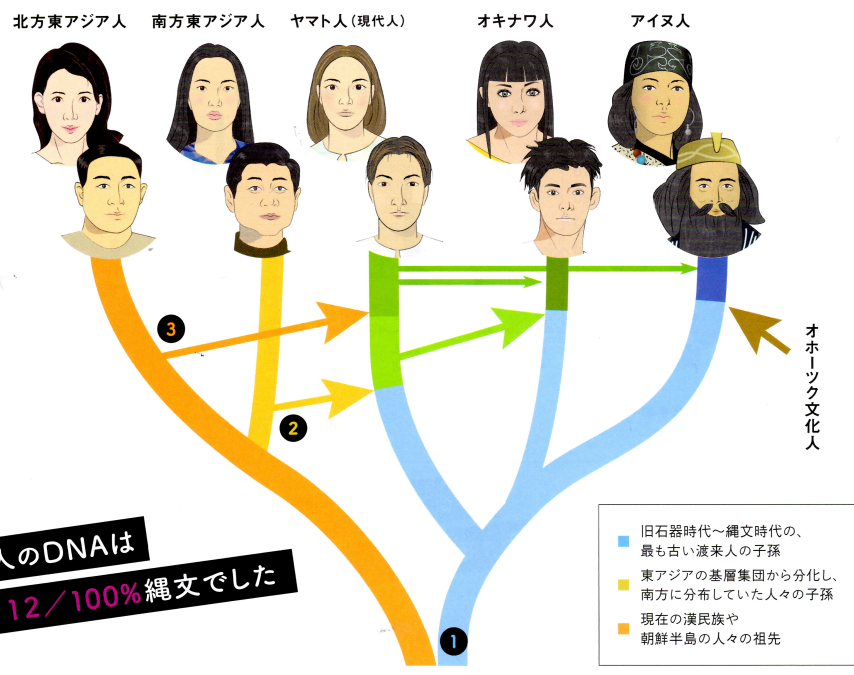
縄文人は、アフリカを発端とするオーストラリアやパプアニューギニアの原住民の祖先に続く、非常に歴史の古い人類。人類誕生の地であるアフリカ人に近い特徴を備えていたようだ。湿った耳垢などはその一例



核ゲノムが
縄文人の姿を明らかにした
核ゲノムとは、細胞内に含まれる核DNAを構成する、32億という膨大な塩基配列による全遺伝情報。古代人の核DNAは、骨髄や歯といった部位から抽出する。「縄文人の瞳は茶色」といった情報を知るカギとなる

画像提供：国立科学博物館

DNA



現代人のDNAは
12/100%縄文でした

- 3 水田稲作を導入した農耕民によりさらに混血が第3波の渡来民が2の祖先と交流。さらに彼らは沖繩に居住する縄文人の子孫と交流し、オキナワ人の祖先に。北海道の同子孫はオホーツクからの渡来民と混血し、アイヌ人の祖となった
- 2 4000～3000年前に「海の民」と混血 縄文時代後期～弥生時代前期に、朝鮮半島や遼東半島など沿岸域に暮らしていた狩猟採集民と思われる、海の民(第2波の渡来民)と縄文人が交流。現代のヤマト人の祖先が誕生した
- 1 3万年以上前 DNAはふたつに分かれた 朝鮮半島や千島列島、台湾や樺太島などさまざなルートでやってきた第1波の渡来民が、日本列島各地に居住。海で大陸の人々と遮られて日本に残った彼らが、後に縄文人と呼ばれる

授のグループは「三貫地貝塚(福島県)から発掘された縄文人の核DNAを解析した。これまで、ヤマト人は縄文人と大陸からの渡来民の混血によって誕生したとされてきました。しかし実際は、さらにもうひとつの渡来民を含めた3段階の混血を経ており、縄文人のDNAが私たちに引き継がれていることが明らかになったのです。この解析結果はまた、また、渡来民との交流が少なかったアイヌ人やオキナワ人が、縄文人の特徴をより多く残しているという従来の定説を裏付けた。

この研究成果の発表後、船泊遺跡(北海道)から発掘された縄文人の核DNAの解析によって、アイヌ人のDNAはその半分以上が縄文人と同一のものである可能性が示唆されているという。核DNA解析のこれからの気になるところだ。「謎に包まれている第2の渡来民(海の民)は、中国南部の少数民族以外にも、日本語の祖語が判明する可能性があります。さらには、縄文人の起源に迫れるかもしれません。」

ドイツのヴァインクラー教授がゲノムという言葉を提唱してから、2020年で1世紀。途方もない時を経て、私たちと縄文人の確かなつながりが明らかになるうとしていく。

「ヤマト人には、縄文人のDNAが約12%含まれている」。一昨年、そんな衝撃の事実が発表された。縄文人の遺伝子が残っていたとしても、それが1割を超えるなんて……。これが多くの人の本音だろう。

そんな研究成果をもたらしたのは、近年の「情報革命」があつたからこそ。これまでは、母親から受け継いだ「ミトコンドリアDNA」、そして父親から受け継いだ「Y染色体」でルーツを探ってきたのだが、「核DNA」の解析技術が向上し、かつての1000倍〜1万倍もの情報が入手できるようになった。具体的には、今まで知ることができたのは何千人もいた祖先のうち、母系祖先の一人や父系祖先の一人だけだったが、多数の祖先に同時にさかのぼることができるようになった。

さて、冒頭の事実を導き出したのは、国立遺伝学研究所の齋藤成也教授。教